土讃線新観光列車の名前とデザインが決まりました！

平成２８年２月２９日

ＪＲ四国では、平成２９年春から土讃線の多度津・琴平～大歩危間に新たな観光列車を運行いたしますが、このたび運行開始日、列車名、車両のデザインなどが決まりましたのでお知らせいたします。

記

１　運行について

⑴　運行開始日

平成 29 年 4 月 1 日（土）

⑵　運行区間と運行日

土讃線、多度津・琴平～大歩危（駅）間（列車は多度津～大歩危間を運転しますが、主なサービスは琴平～大歩危間です）を土日、祝日に 1 日 1 往復（年間 120 日程度）のほか平日に貸切（年間 50 日程度）運行いたします。　別紙１参照

２　列車名

四国（しこく）まんなか千年（せんねん）ものがたり

琴平～大歩危間は四国山地を横断する土讃線の中間で、地理的にも四国のまんなかあたりに位置します。沿線には弘法大師の生誕地善通寺や古くから海の神様として信仰を集めるこんぴらさん、平家落人の秘話や伝説が今なお残る秘境祖谷地方など千年を超える歴史的な文化や景観が残されています。トンネルをくぐり抜ける度に移りゆく清らかで美しい里山や渓谷の景観と「千年」という言葉に、はるか昔に思いを馳せながら隠れた日本の良さを見つけ出す列車旅をイメージしました。

３　列車愛称

上り、下り列車毎にそれぞれの目的地をイメージした愛称をつけました。

⑴　下り（多度津・琴平→大歩危）　午前運転

そらの郷紀行（さときこう）

「そらの郷」は徳島県西部の険しい山岳地帯のことを指します。幾度かトンネルをくぐり鉄橋を渡りながら列車は秘境の地へと向かいます。

※徳島県の人々は、自分たちが住む場所より標高の高い地域のことを「そら」と呼ぶことがあります。

(2)　上り（大歩危→琴平・多度津）　午後運転

しあわせの郷紀行（さときこう）

そらの郷からの旅は険しい山々や渓谷を越え、いつしか穏やかな山容の讃岐平野に至ります。「しあわせさんこんぴらさん」で親しまれている「こんぴらさん」の玄関口「琴平駅」へ向かいます。

４　コンセプト

おとなの遊山（ゆさん）

「遊山」とは山や野に遊びに出かけること。その昔、徳島の人々は桃の節句になるとお弁当を持って近くの山や浜へ出かけて１日を過ごしました。この行事を「遊山」と言い、お弁当箱は「遊山箱（ゆさんばこ）」と呼ばれてきました。

「おとなの遊山」は、観光、行楽、遠足とは少し異なる情緒的な響きの小旅行「遊山」を、“気軽に乗れる列車旅”として現代風にアレンジしたものです。

車内では気の合う友達とにぎやかに、時には一人でのんびりと、車窓からのきれいな景色と地元食材にこだわった印象に残る料理などを楽しみ、目的地では温泉や未知なる場所の発見や体験をお楽しみください。

５　車両デザインについて

(1)　使用車両

キハ 185 系特急形気動車　3 両　　別紙 2 参照

(2)　デザインコンセプト

日本のたたずまい

民家のしつらえや着物の文様をモチーフに、「和の風情」を演出するデザインとしました。

(3)　外観デザイン　別紙 3，4 参照

春夏秋冬、1 年の四季の移ろいを各車両毎の色どりで表現しました。

・１号車：春萌（はるあかり）の章

厳しい寒さに耐えていた木々の芽は、春の萌に一斉に目覚め里山に薄緑のカーテンをかけます。若葉は競って茂り日増しにその色は深い緑に変化していきます。

・２号車：夏清（なつすがし）の章

幾筋もの小川を集め蕩々と流れる大河の色は青く、川面を渡る清々しい風が夏の暑さをしばし忘れさせます。清らかな流れで育った鮎が跳ね水紋を描きました。

・２号車：冬清（ふゆすがし）の章

空を見上げるといつしか白い綿毛のような雪が舞っています。張り詰めた冬の水面には、小紋のようなさざ波が立っています。

・３号車：秋彩（あきみのり）の章

黄金色の稲穂が里山の人々にこの年の豊作を告げています。「そらの郷」では一足早く朱色に染まったもみじが真っ赤な絨毯を広げ始めました。

(4)　インテリアイメージ　別紙 5 参照

・重ねた時の深遠を映す褐色木材の凜とした室内空間
・外観デザインにあわせた彩りのソファ椅子
・反対側の車窓も楽しめる座席の配列
・古民家を想起させる「火棚（囲炉裏の上部に吊られる棚）」をモチーフにした格天井

６　今後の予定

⑴　列車改造スケジュール

・平成 28 年 8 月頃　　列車改造開始
・平成 28 年 12 月頃　　列車改造完了
・平成 29 年 1 月頃～3 月頃　　走行試験、訓練運転等
・平成 29 年 4 月 1 日　　運行開始

⑵　停車駅、運転時刻、座席数、料理内容等詳細については決定次第お知らせします。

＜参考＞

１　運行区間（多度津・琴平～大歩危）の選定理由　（平成 27 年 11 月 30 日発表内容再掲）

⑴　「山」「川」の景観が美しい区間

四国には、海、山、川と恵まれた自然があり、「伊予灘ものがたり」は「海」をコンセプトに盛り込んだ観光列車として開発しました。次は「山」「川」をテーマにしたいと考え、それら両方の景観が美しい区間として選定しました。

⑵　２つの観光圏をつなぐ

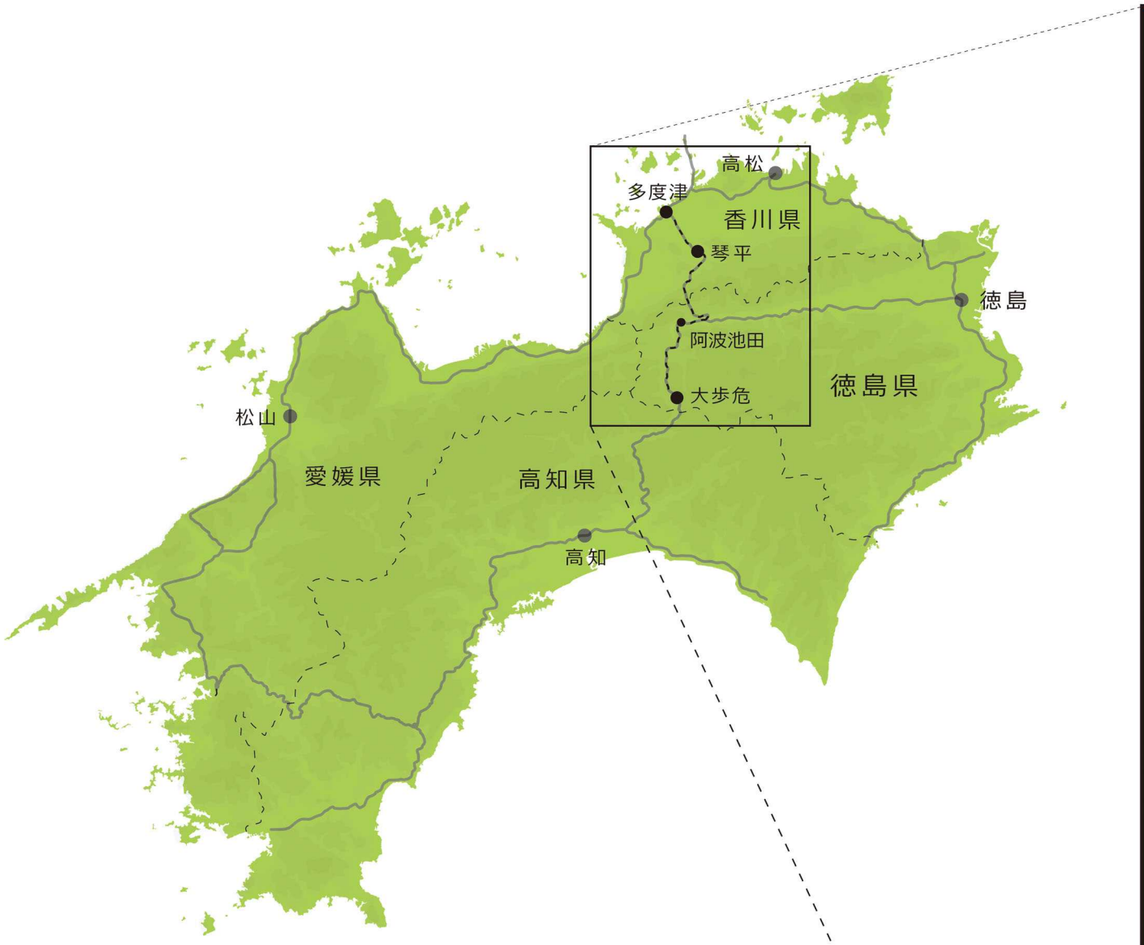
観光庁の認定する全国 13 の観光圏のうち「にし阿波～剣山・吉野川観光圏（徳島県）」と「香川せとうちアート観光圏（香川県）」）は唯一隣接しており、これらをつなぐ観光列車により観光圏事業とのタイアップ企画等新たな旅行需要が創出されると考えています。

⑶　トロッコ列車の実績

「大歩危秘境トロッコ」の運転区間を 2015 年春より琴平～大歩危に変更し「絶景！土讃線秘境トロッコ」としたところ、個人客とともに、旅行会社による平日貸切便の運行も増加しており、潜在的な需要が見込めます。

２　観光列車「伊予灘ものがたり」（平成 26 年 7 月運行開始）の列車名

・松山→伊予大洲：大洲編
・伊予大洲→松山：双海編
・松山→八幡浜：八幡浜編
・八幡浜→松山：道後編



SHIKOKU MANNAKA
SENNEN MONOGATARI
四国まんなか千年ものがたり

運行区間　多度津・琴平 ▶ 大歩危 「そらの郷紀行」
大歩危 ▶ 琴平・多度津 「しあわせの郷紀行」

185 系特急形気動車 外観

内観

SHIKOKU MANNAKA SENNEN MONOGATARI

四国まんなか千年ものがたり

そらの郷紀行　多度津・琴平 ▶ 大歩危

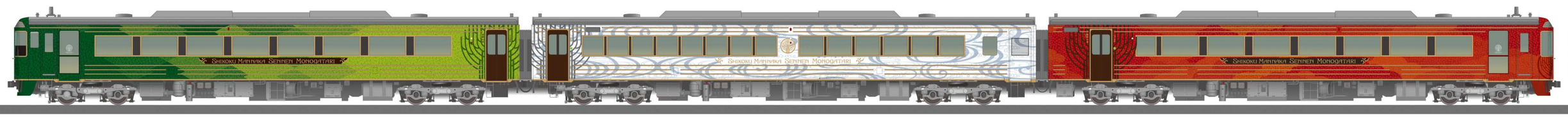
3号車　秋彩「あきみのり」の章　　2号車　夏清「なつすがし」の章　　1号車　春萌「はるあかり」の章

© SHIKOKU RAILWAY COMPANY

SHIKOKU MANNAKA SENNEN MONOGATARI

四国まんなか千年ものがたり

しあわせの郷紀行　大歩危 ▶ 琴平・多度津



1号車　春萌「はるあかり」の章

2号車　冬清「ふゆすがし」の章

3号車　秋彩「あきみのり」の章

© SHIKOKU RAILWAY COMPANY

SHIKOKU MANNAKA SENNEN MONOGATARI

四国まんなか千年ものがたり

© SHIKOKU RAILWAY COMPANY